

授業改善推進プラン<家庭科>

家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理と裁縫への意欲が高く、実習にも意欲的かつ安全に配慮して取り組むことができた。 ○学習した基礎的基本的な内容についてはおおむね理解できている。 <p><思考力、判断力、表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定された課題について、生活経験を生かして解決方法を考えようとする姿勢が見られる。 <p><学びに向かう力、人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理実習や布製品の製作に対する意欲が高い。 	<p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本的知識が身に付いている児童がほとんどだが、家庭実践の個人差が大きく、技能が定着は不十分である。 ●家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解はできているが、家庭で実践している児童が少ない。 <p><思考力、判断力、表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現しようとする力が不十分である。 <p><学びに向かう力、人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習した知識や技能を家庭で生かそうとする児童が少ない。 ●家族とともに過ごす時間が減少している傾向にある。そのため、家族や家庭の大切さを十分、認識できていない児童もいる。また、「家庭で手作りする」といった機会も全体として減少傾向にある。

<家庭科の授業改善策>

<知識及び技能>

- ・ペアやグループ等児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを広げ深めたりする場を設定する。
- ・問題解決的な学習、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることのできるように、自分の家庭生活に関連付けられるような授業を展開する。
- ・授業、家庭学習にICT機器を積極的に活用し、知識及び技能の定着を図る。
- ・「スクールサポートまごめ」と連携し、個に応じた支援の充実によって、手縫い、ミシン、調理の技能を確実に習得させる。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・調理、製作等の実習や観察、実験など、それぞれの特徴を生かした実践的・体験的な活動を充実させることで、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育てる。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・「家庭科だより」や保護者会等を通じて家庭に情報を提供したり協力を呼び掛けたりする。
- ・長期休業中の課題で、家庭での実践の場と家族との触れ合いの場を作ることで、家族の大切さや家庭の良さに気付かせる。
- ・作品を紹介しあったり、展示する機会を設けたりすることで他者と自分の作品の良さや工夫に気付かせる。

